

平成28年度病害虫発生予報第10号

平成29年 1月 6日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	葉かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	12月下旬の発生量はやや多い	+
	うどんこ病	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	少ない	県全域	12月下旬の発生量は少ない	-

・防除対策

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

夜間暖房機が稼働しない時には送風だけでも行ない、施設内が多湿にならないようにしましょう。発生前からボトキラー水和剤をダクト内投入するなどして予防に努めましょう。発生後はピクシオDFやカンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。曇雨天が続いたときなどは、くん煙剤を利用しましょう。なお、発病果や発病葉などは速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

・留意事項

イチゴのハダニ類の発生量は今のところ平年に比べ少ない状況ですが、多発しているほ場もあります。また、施設内の気温が高く推移すると、発生量が増加するおそれがあります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは今後導入を予定しているほ場では、それらに影響の少ない農薬を選定してください。

キャベツでは、コナガの発生量が平年に比べ多い状況です。特に春キャベツの作付けがある産地では、収穫が終了したら、速やかに残渣をすき込みましょう。

トマトでは、黄化葉巻病の発生量は多くはありませんが、発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。タバココナジラミは低密度でもトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介します。タバココナジラミの増殖が盛んになる前に防除を徹底しましょう。

トマト、ナスでは、すすかび病の発生量が多いほ場があります。多湿条件下で多発するので、換気を十分に行いましょう。農薬は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

ナスでは、うどんこ病の発生量が平年に比べてやや多い状況です。うどんこ病が発生しているほ場では、薬剤防除を行いましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台1月5日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%